

信州 ESD コンソーシアム

令和4年度 信州 ESD/SDGs 成果発表&交流会 実践記録

1. 学校名 対象 (学年、人数) 信州大学教育学部附属長野小学校 6 学年 37 名

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動名「私の土器作り」

(2) 目 標 ①土器作りを通して、ひと・もの・ことに出会い、科学や歴史、文化、技術などに触れることを通して、多様な見方や考え方をもち、物事の捉えを豊かにすることができる。

②私の目指す土器を追究する中で、友と協力しながらよりよいものづくりの過程を見出すことで、一人ひとりが自己実現に向かって追究し続けることができる。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

多様性 (多種多様な現象が起きていること)

公平性 (一人ひとりを大切に)

相互性 (関わりあっている)

連携性 (互いに連携・協力すること)

有限性 (限りがある)

責任制 (責任を持って)

その他 ()

②育成する資質・能力

批判的に考える力

他者と協力する力

未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDG s

9 産業と技術革新の基礎をつくろう 12 つくる責任 使う責任

(5) 探求課題・活動実践の概要

理科の授業の中で土粘土の存在に目を向け、土から粘土を取り出した。その粘土から土器づくりを発想し、縄文人のように野焼きを行った。よりよい土器作りのため、様々な制作方法や素焼きの仕方を比較しながら、自身の過程で土器作りを見出していった。実用的なものにしたいという願いから伝統工芸品である松代焼に注目し、松代焼の技や文化、歴史などに触れた。松代焼職人に教えてもらった釉薬の材料を使って、分量比による表面のコーティング具合や色合いの変化を見出した。様々な色合いを追究するため、透明であった釉薬に着色剤を混ぜた時の様子を比較し、自分の思い描く土器作りを行った。

3. 流れ (指導計画の概略)

4 年生 : 1 2 月 校庭の土から粘土を取り出す 1 ~ 2 月 土器作り

2 ~ 3 月 野焼き

5 年生 : 4 ~ 6 月 手回しろくろで土器づくり

7 ~ 1 2 月 よりよい素焼きを目指して野焼きと七輪焼とドラム缶焼き

1 2 月 松代見学

1 ~ 3 月 灯油窯による素焼き

6 年生 4 ~ 7 月 釉薬作りとテストピース

8 ~ 1 2 月 私の釉薬作り

4. 効果・反応・所感

「私達は、今まで土器のことについてたくさん学んできました。松代焼の土器職人の方とあって、釉薬の成分や電動ろくろを使用した土器作りを見せてもらったり、土器の歴史を知ったり、土器の元となる土を変えて粘土にしたり、釉薬を作るための藁灰、木灰、白土を教えてもらったりしました。それが新たな発見や理想の土器を作るヒントとなり、大きな経験を与えてくれました。そして、私達も電動ろくろを取り入れた土器の制作や釉薬を用いた土器作りをしました。皿だけではなく、コップや箸置きなども作りました。最初は不格好な形の土器ばかりでしたが、今の私達の作品を見ると随分成長したと感じます。これからも、たくさん経験を通して、私達の理想の作品を作り出していきたいです。(K さん)」

「この達成感、実際にやった人にしかわからない。挑戦してみてよかったなと思います。たくさん試行錯誤してきた私達の土器は宝物です。今までたくさんあった土器の思い出がすべて詰まっている気がします。私は今まで、一つのことを一所懸命に努力したことがありませんでした。物事をすぐに諦めていました。だからこの土器づくりで一つのものに全力を込められたことがとても嬉しいです。(S さん)」

土器作りを通して、ひと・もの・ことに触れ、そこに潜む科学や歴史、文化、技術などを学んだ子どもたち。作り上げた一つ一つの土器には「この子」の「この時」が込められている。「この土器」作りを通してよりよい自分との出会いをしていった子どもたちがいた。

5. 指導方法・体制の工夫 (協力者や資源)

①あまかざり工房 宮崎知幾さん ②真田宝物館 山口さん ③松代焼古陶館 古川さん